

日本と海外をつなぐ架け橋 —「ブリッジSE」をめざして— ブリッジSE講演会

■日時:10月9日(木)13:30~15:00

■会場:本学 知識科学研究科棟5F コラボレーションルーム2

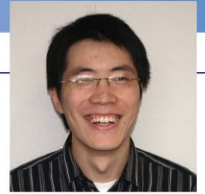
オフショア開発*に取り組むIT企業が増えるなか、文化の違いやコミュニケーション不足を原因とするトラブルも増えているといいます。そのような状況下で注目を浴びているのが、言語や文化における両国間のビジネス習慣の違いを熟知し、間に立って円滑に業務を進める「ブリッジSE」です。

本学においても、今年8月、留学生を中心メンバーとする「ブリッジSE研究会」が発足。10月9日に同研究会の主催で講演会が開催されました。講師は日本におけるブリッジSEの第一人者・幸地 司氏。研究会メンバー以外の学生も多数参加し、大盛況でした。

*情報通信企業が、システム開発・運用管理などを海外事業者や子会社に委託すること。



講演だけでなく、グループワークや質疑応答も活発に行われました。講演会終了後の懇親会では、業界の最新動向など耳よりの話も



「ブリッジSE研究会」代表

李 江涛さんに聞きました!

Profile リ・こうとう/中国出身。勤務先で日本製品を取り扱ううちに日本に興味を抱き、5年前に来日。金沢星陵大学で学士(経済学)取得。今年4月本学知識科学研究科に入学。梅本勝博研究室所属。

■研究会を立ち上げた経緯は?

情報系の仕事に興味はありましたが、「ブリッジSE」のことは研究室に入るまで全く知りませんでした。しかし、徐々にこの仕事の将来性に魅力を感じるようになり、今年8月、中国・ベトナムからの留学生を主とする9人のメンバーで研究会を立ち上げました。

■研究会の活動は?

月に1回、テキストの輪読会を開催し、ディスカッションしながら理解を深める活動を行っていましたが、毎回5~6人しか集まらず、今後も続けていけるかどうか不安でした。そんななかで開催した今回の講演会では、研究会メンバー以外の学生もたくさん参加してくれ、強い興味を示してくれました。現在のメンバーは16名。これからの研究会が楽しみです。

■これからの目標は?

今まではブリッジSEを「システム開発における通訳者」くらいにしか思っていませんでしたが、講演会を通して、それだけではない難しさがあると感じました。もっといろいろな講演を聞きに行ったりして勉強しなくてはなりません。今後も研究会を引っ張っていけるように頑張ります!

時代が求める「使命達成型職業人」をめざせ! 集中講義「プロジェクトマネジメント・初級編」

■日時:9月16日(火)~19日(金)9:20~16:40

■会場:本学 知識科学研究科講義棟2F 中講義室

さまざまな場面において、文化や価値観の異なる人々との協働が避けて通れなくなった現代。「あうんの呼吸」でコミュニケーションを図りながらものごとを進める日本式のやり方に、取って代わりつつあるのが「プロジェクトマネジメント」です。

ここで言う「プロジェクトマネジメント」は、一般用語ではなく、プロジェクトの遂行に必要な要素を「標準化」し、目に見える形にすることによって、効果的・効率的にミッションを達成するための手法を指しています。

本学の学生たちは、社会に出れば若いうちからチームを率いるリーダーとしての役割が期待されます。そこで本教育プログラムで企画したのが、この「プロジェクトマネジメント講座」です。

初級編は、9月の集中講義で実施。講師には、大手企業で長年プロジェクトマネジメントの実践経験を積んでこられた、日本プロジェクトマネジメント協会の古園 豊氏と梶原 定氏をお迎えしました。めざすのは、複雑化する課題に解決の道を開き、企業価値創造の中心を担う広い領域を

集まった学生は約30名。ほぼ全員が企業への就職希望者でした



持った専門家「使命達成型職業人」です。4日間にわたって、「プロジェクト」という言葉の定義から、組織・コミュニケーション・資源・リスクなどの個別マネジメントまで、みっちり学びました。

12月には中級編も開講予定。近い将来、実社会において、この講義で得た知識が活かされることを期待しています!

KEY WORD

●「プロジェクト」とは?

特定の使命 (Project Mission) を受けて、始まりと終わりのある特定期間に、資源・状況などの制約条件のもとで達成をめざす、将来に向けた価値創造事業のこと

●「プロジェクトマネジメント」とは?

特定の使命を達成するために有期的なチームを編成し、プロジェクトマネジメントの専門能力を駆使して、プロジェクトを公正な手段で効率的・効果的に遂行し、確実な成果を獲得する実践的能力をプロジェクトに適用すること

出所:日本プロジェクトマネジメント協会

とびうめ通信 No.2 (2008年11月)

発行:国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科

大学院教育改革支援プログラム「グループワークによる知識創造教育」 代表 梅本 勝博

〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識研究棟7F 電話0761-51-1711(梅本研究室) <http://www.jaist.ac.jp/groupwork/>